

有機薬化学3（炭素-ヘテロ原子多重結合の化学）

責任者・コーディネター	創薬有機化学分野 河野 富一 教授		
担当講座・学科(分野)	創薬有機化学分野		
対象学年	3	区分・時間数	講義 21 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

有機薬化学1および2の学習内容をもとに、この講義では、代表的な炭素-ヘテロ原子二重結合をもつ有機化合物を中心に学習する。これらの化合物に関連する官能基の構造及び性質について理解したうえで、特に、アルデヒド、ケトン、カルボン酸およびカルボン酸誘導体の命名法、構造、性質および反応について学ぶ。この科目は、3年次後期で履修する「有機生体制御化学」、4年次で履修する「実践医薬化学」を理解するための基盤科目である。

・教育成果（アウトカム）

炭素-ヘテロ原子二重結合を有する化合物の命名法、構造、性質、反応および合成を学ぶことで、医薬品としての作用発現に重要な役割を担う官能基をもつ有機化合物の基本的事項を理解できるようになる。
(ディプロマ・ポリシー：2,7)

・到達目標（SBO）

1. アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる(255)。
2. カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる(256)。
3. カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド）の基本的性質と反応を列挙し、説明できる(257)。
4. ニトリル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる（☆）。
5. カルボン酸の酸性度を比較して説明できる（☆）。
6. アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる（☆）。
7. カルボン酸の代表的な合成法について説明できる（☆）。
8. カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド）の代表的な合成法について説明できる（☆）。
9. 炭素-ヘテロ原子多重結合の化学の概要を理解できる（☆）。

・講義日程

(矢) 西 103 1-C 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/10	金	3	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	イントロダクション 1. 炭素-ヘテロ原子多重結合の化学の概要を理解できる。 事前学習：教科書12章 アルデヒドおよびケトンの反応（p231～p232まで）を最低限読んでくる。

					事後学習：問題集を用いた演習を通じて本日の講義内容を復習する。
4/15	水	1	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	<p>アルデヒドとケトンの構造と性質</p> <p>1. アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質を列挙し、説明できる。</p> <p>【反転授業】</p> <p>事前学習：教科書12章 アルデヒドおよびケトンの反応 (p237 ~ p240 まで) を最低限読んでくる。</p> <p>事後学習：問題集を用いた演習を通じて本日の講義内容を復習する。</p>
4/22	水	1	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	<p>アルデヒドとケトンの反応1</p> <p>1. アルデヒド類およびケトン類の基本的な反応を列挙し、説明できる。</p> <p>【反転授業】</p> <p>事前学習：教科書12章 アルデヒドおよびケトンの反応 (p240 ~ p243 まで) を最低限読んでくる。</p> <p>事後学習：問題集を用いた演習を通じて本日の講義内容を復習する。</p>
5/1	金	3	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	<p>アルデヒドとケトンの反応2</p> <p>1. アルデヒド類およびケトン類の基本的な反応を列挙し、説明できる。</p> <p>事前学習：教科書12章 アルデヒドおよびケトンの反応 (p243 ~ p246 まで) を最低限読んでくる。</p> <p>事後学習：問題集を用いた演習を通じて本日の講義内容を復習する。</p>
5/13	水	1	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	<p>アルデヒドとケトンの反応3</p> <p>1. アルデヒド類およびケトン類の基本的な反応を列挙し、説明できる。</p> <p>事前学習：教科書12章 アルデヒドおよびケトンの反応 (p246 ~ p249 まで) を最低限読んでくる。</p> <p>事後学習：問題集を用いた演習を通じて本日の講義内容を復習する。</p>
5/20	水	1	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	<p>アルデヒドとケトンの合成1</p> <p>1. アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。</p> <p>【反転授業】</p> <p>事前学習：教科書12章 アルデヒドおよびケトンの反応 (p246 ~ p251 まで) を最低限読んでくる。</p> <p>事後学習：問題集を用いた演習を通じて本日の講義内容を復習する。</p>

5/27	水	1	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	<p>アルデヒドとケトンの合成2</p> <p>1. アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。</p> <p>事前学習：教科書12章 アルデヒドおよびケトンの反応 (p251～ p257 まで) を最低限読んでくる。</p> <p>事後学習：問題集を用いた演習を通じて本日の講義内容を復習する。</p>
6/3	水	1	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	<p>これまでの復習・まとめ</p> <p>事前学習：第12章に関連する講義ノートやプリントを見直してくる。</p> <p>事後学習：第12章に関連する宿題、教科書および問題集の問題を利用して復習する。</p>
6/10	水	1	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	<p>カルボン酸およびその誘導体の構造と性質</p> <p>1. カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。</p> <p>2. カルボン酸の酸性度を比較して説明できる。</p> <p>事前学習：教科書13章 カルボン酸およびカルボン酸誘導体の性質と反応 (p259～ p263 まで) を最低限読んでくる。</p> <p>事後学習：問題集を用いた演習を通じて本日の講義内容を復習する。</p>
6/17	水	1	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	<p>カルボン酸およびその誘導体の反応1</p> <p>1. カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物) の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。</p> <p>【反転授業】</p> <p>事前学習：教科書13章 カルボン酸およびカルボン酸誘導体の性質と反応 (p263～ p274 まで) を最低限読んでくる。</p> <p>事後学習：問題集を用いた演習を通じて本日の講義内容を復習する。</p>
6/22	月	4	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	<p>カルボン酸およびその誘導体の反応2</p> <p>1. カルボン酸誘導体 (エステル、アミド) の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。</p> <p>事前学習：教科書13章 カルボン酸およびカルボン酸誘導体の性質と反応 (p274～ p281 まで) を最低限読んでくる。</p> <p>事後学習：問題集を用いた演習を通じて本日の講義内容を復習する。</p>

6/24	水	1	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	<p>カルボン酸およびその誘導体の反応3</p> <p>1. ニトリル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。</p> <p>事前学習：教科書13章 カルボン酸およびカルボン酸誘導体の性質と反応 (p281 ~ p286 まで) を最低限読んでくる。</p> <p>事後学習：問題集を用いた演習を通じて本日の講義内容を復習する。</p>
6/29	月	4	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	<p>カルボン酸およびその誘導体の合成</p> <p>1. カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。</p> <p>2. カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド) の代表的な合成法について説明できる。</p> <p>【反転授業】</p> <p>事前学習：「アセト酢酸エステル合成」と「マロン酸エステル合成」について調べておく。</p> <p>事後学習：問題集を用いた演習を通じて本日の講義内容を復習する。</p>
7/1	水	1	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	<p>有機薬化学3のまとめ</p> <p>事前学習：関連する全範囲の講義ノートやプリントを見直してくる。</p> <p>事後学習：関連する全範囲の宿題、教科書および問題集の問題を利用して復習する。</p>

・教科書・参考書等 (教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	薬系有機化学	安藤 章、山口 泰史 編	南江堂	2018
教	大学生のための有機反応問題集 (第2版)	山口 泰史 著	三共出版	2018
参	困ったときの有機化学 上・下	D. R. クライン 著、竹内 敬人・山口 和夫 訳	化学同人	上 2018 下 2019
参	ブルース有機化学(第7版)上	Paula Y. Bruice 著	化学同人	2014
参	ブルース有機化学 (第7版) 下	Paula Y. Bruice 著	化学同人	2014
参	ブルース有機化学問題の解き方 第7版 (英語版)	Paula Y. Bruice 著	化学同人	2014
参	スミス有機化学 (原著第5版) 上	Janice Gorzynski Smith 著	化学同人	2017

参	スミス有機化学（原著第5版）下	Janice Gorzynski Smith 著	化学同人	2018
参	スミス基礎有機化学問題の解き方 第3版（英語版）	Janice Gorzynski Smith 著	化学同人	2014

・成績評価方法

定期試験（約80%）、レポートおよび自主的取り組み（合わせて約20%）をもとに総合的に評価する。

・特記事項・その他

授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低30分を要する。さらに、定期試験前には少なくとも10時間程度の総復習の時間を確保する必要がある。詳細な予習・復習の方法を初回講義時に説明する。

講義内容の理解度を確認するためにレポート等の課題提出を求めることがある。提出された課題については採点后に返却し、次回講義時にフィードバックするか、moodleの講義サイトに解説等をアップする。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン	1	スライド投影のため